

英語野球表現の意味変化に関する一考察（意味の一般化と同義表現より）

吉田由美子
(大手前大学)

1. はじめに

スポーツは文化と密着に関わり、言語に大きな影響を及ぼしてきた。どんな言語であれ、スポーツ用語を語源とする表現は多々ある。中でも、野球とアメリカ英語の関係は切っても切れない。その影響の大きさを、Dickson (2015) は、

... we can reflect that the influence of baseball on the English language is stunning, strong, and at what appears to be an all-time real and metaphoric high.

と表現し、民俗学者である Coffin (1971) の言葉を引用している。

“No other sport and few other occupations have introduced so many phrases, so many words, and so many twists into our language as have baseball.”(*The Old Ball Game: Baseball in Folklore and Fiction*)

アメリカにおいて野球は国民的娯楽 (national pastime) とされ、多くの人にとって身近なスポーツであり親しみも深い。それ故に、本来野球用語として用いられた言葉が一般化した例は数多い。また、メジャーリーグの野球は言葉遊びが好き (ヒギンズ, 2002) とされるように、メジャーリーグの野球用語はこれまで様々な表現へ派生し、多くの同義表現が生み出されてきた。

寺澤 (2016) は、英単語の意味変化に関し、「ある意味から別の意味に変化するときには二つの事柄の間には何らかの連想関係が見られる」としている。多くの英語野球表現は英和辞典や英英辞典などにも取り上げられているが、その意味変化のプロセスや用例を見ることは英語表現を研究する上で意義深いものと考えられる。

これらのことを背景に、本稿では、英語野球表現の意味変化に関し、意味の一般化と同義表現に焦点を当て、なぜその言葉の意味が変化したのか、意味変化における特徴的なことは何かについて考察する。

2. スポーツ用語から意味が一般化した表現

2.1 日本語におけるスポーツ用語からの意味の一般化

スポーツ用語から意味が一般化した表現は多い。まずは日本語における例を見ていく。日本語には、「仕切り直し」や「序の口」のように相撲を語源とし意味が一般化した表現が多い。大辞泉によると、「仕切り直し」とは、「相撲で両力士の呼吸が合わないために仕切りをやり直すこと」、転じて「スポーツ・将棋などの勝負事をやり直すこと。交渉などを最初からやり直すこ

と」とある。「序の口」は「相撲で一番下に記される地位」（大辞泉）とあり、取り組みも序の口から始まる。そこから転じて「物事の始まったばかりのところ」（大辞泉）という意味に一般化された。また「ニアピン」というゴルフで「ショートホールでピンに一番近く寄ったショット」（Weblio）という意味を表す用語（和製英語）から転じて、「近い」や「惜しい」の意味を表す。「レッドカード」はサッカーで「選手に退場を命じる時に審判が示す赤いカード」（大辞泉）であるが、「それをやったら即レッドカードだぞ」というような表現では、上記意味から転じて、禁止行為・退場処分・出入り禁止処分・営業停止処分の意味で用いられ、「最後通告」の意味で用いられる。他にもゴルフ・野球・テニスなどのスポーツでボールがクラブやバット、ラケットなどにあたらない行為を表す「空振り」という言葉も、そこから転じて「ある目的を持ってとった行動がアテがはずれて失敗すること」（大辞泉）という意味に一般化されている。日本語では上記の例のような相撲、ゴルフ、サッカーなどに限らず柔道、剣道など様々なスポーツを語源とする表現の意味が一般化してきた。

2.2 英語におけるスポーツ用語からの意味の一般化

次に英語におけるスポーツ用語の意味の一般化の例を見る。サッカーで用いられる *hat trick* という表現は、もともとは「マジシャンの手品のこと。1試合3得点なんて手品か魔法を使わないとできない記録という考え方が前提としてある」（ヒギンズ, 2002）。辞書を見ると、LDOCE には *a series of three successes, especially in sports such as football when the same person scores three times* とあるが、ジーニアスにはそこから転じて「連続した3つの成功」という一般化した意味が載っている。以下がその用例である（下線は筆者）。

Our work has led to high-energy lithium-ion battery cells that are cheaper, safer, and more powerful — a rare hat trick in energy research. (COCA: Nov/Dec 2011. The Washington Monthly)

You've managed an unusual hat trick in working with three extraordinary mentors. Can you tell us about them? (COCA: 2007.4.15. Chicago Sun-Times)

またバスケットボールで、「強烈なダンクシュート」（ジーニアス）を表す *slam dunk* という表現も、シュート時にシューターとバスケットとの距離が非常に短くシュートの成功の確率が高いことから、1) *something that is certain to be successful* (OALD)、2) 必ず上がる新発行の株(ランダムハウス)という意味に一般化された。またシュート時の派手なパフォーマンスから 3) *a very impressive act* (LDOCE)、強烈な手段(動き)(ジーニアス)という一般化した意味も持つ。以下の文章では 1) の意味で *slam dunk* が用いられている（下線は筆者）。

But an Axis-My-India poll for the India Today Group showed the B.J.P. in a statistical dead heat with the alliance, suggesting its opponents have surged in recent weeks. The election may still go the B.J.P.'s way, but what seemed like a slam-dunk a month ago looks as if it could be very close. A major reason for the change in fortunes was the victory of Akhilesh Yadav, the 43-year-old chief minister of Uttar Pradesh and president of the

Samajwadi Party, in a power struggle with his father. He emerged not only with control over the party, but also with his image burnished, experts said. (2017.2.14. New York Times)

アメリカ英語では、アメリカ4大スポーツの一つであるアメリカンフットボール用語の意味の一般化も目立つ。以下に二つの例を示す。最初は hail Mary pass で、a desperation pass downfield usually employed at the end of a half or game (Football Terms & Plays with a Glossary and Play Dictionary) を表し、ハーフタイム直前もしくはゲーム終了直前に同点や逆転を狙って投げられる一か八かのパスのことを言うが、そこから転じて an action you take that is unlikely to succeed and which you only take because there is no other way of achieving something (LDOCE), 「土壇場の尽力、最後の手段の提案や要求」(ジーニアス) という意味で用いられる。以下に文例を示す(下線は筆者)。

Some call the ice wall a flashy but desperate gambit to tame the water problem, after the government and Tepco were initially slow to address it. Adding to the urgency is the 2020 Olympics, which Prime Minister Shinzo Abe of Japan helped win for Tokyo three years ago by assuring the International Olympic Committee that the water troubles at Fukushima Daiichi were under control.

“It’s a Hail Mary play,” said Azby Brown, a Japan-based researcher for Safecast, an independent radiation-monitoring group. “Tepco underestimated the groundwater problem in the beginning, and now Japan is trying to catch up with a massive technical fix that is very expensive.”(2016.8.29. New York Times)

また、アメリカンフットボールにおいて「攻撃を指揮するプレーヤー」(ジーニアス)である、quarterback を使った Monday morning quarterback という表現は、月曜日になると週末に行われたカレッジフットボールやプロのフットボールの試合で起こったプレイについて批判や議論をする人が多いことから、以下の用例にあるように a person who criticizes or comments on an event after it has happened (OALD) という意味になっている(下線は筆者)。

“Did we make mistakes? Yes. Was it a systemic problem? I don’t think so,” he said, attributing the problems to growing pains. “It’s really easy to play Monday morning quarterback,” he said. (2016.6.26. New York Times)

以上のように、日本語で見た場合と同じように英語においても様々なスポーツの言葉や表現が一般化し使用されている。

3. 野球用語からの意味の一般化

次に野球用語から意味が一般化した表現を、日本語と英語において見る。日本でもアメリカでも野球は国民的スポーツの一つであり、歴史も長く人気も高いため、多くの野球表現の意味が一般化した。しかし、必ずしも、日本語・英語とも同じように一般化されるとは限らない。

その打順の選手に変わって打者となることやその人を指す「ピンチヒッター」のように、日本語でも英語でも「代役」(大辞泉、ジーニアス)、*to do something for somebody else who is suddenly unable to do it (pinch-hit: OALD)* という同じ意味に一般化された例もあるが、同じ野球用語でも日本語と英語では違う意味に一般化されたものや、日本語もしくは英語のみにおいて一般化された表現も多い。3章では、日本語、英語それぞれにおいて一般化された野球用語を見ていく。

3.1 日本語表現における野球用語からの意味の一般化

日本語には、もともと野球用語として用いられていた言葉が一般化した例が数多く見られるが、英語では同じような意味に一般化されず、日本語においてのみその意味に一般化した野球用語も多い。例えば、「投手が交替せずに引き続いて投球すること」を「続投」というが(大辞泉)、そこから転じて、「〇〇大臣、春まで続投」のように「交代せずに役目や職を続けること」(大辞泉)を意味するようになった。また投手の救援をすることを表す「リリーフ」という言葉も、「〇〇会長が今季に限り緊急リリーフ」というように「救助、交替」という一般化した意味を持つ(大辞泉)。しかし、いずれも英語には同様の一般化された意味はない。「ストライクゾーン」という言葉は、「審判がストライクと判定する範囲」の意味から、最近では「異性や趣味などの好みの範囲」を表すが、これも日本語においてのみ一般化された言葉である。また、同じ野球表現でも、日本語で一般化された意味と英語で一般化されや意味が異なるものもある。日本語には「変化球」や「直球」という野球用語が一般化した言葉があり、前者は「策略を用いて物事を行うこと」、後者は「正々堂々、真正面から向かい合うこと」(大辞泉)を意味するが、英語では同じ意味に一般化されていない。英語では「変化球」にあたる *breaking ball* という言葉で一般化した意味はない。変化球の一つである *curve ball* を用いて *throw O a curve ball* という表現に一般化された意味があるが、「人の意表をつく」(ジーニアス)、*to surprise someone with a question or problem that is difficult to deal with (LDOCE)* を表し、日本語の「変化球」とは別の意味になる。以下に用例を示す(下線は筆者)。

We are much better prepared but let me tell you, we have a long ways to go. And that's part of the problem. We're actually starting to cut some of those budgets. We're starting to undermine some of the incredible advances we've made and we need to be paying attention to how much more we need to better be prepared for the full spectrum of threats out there. It's not just smallpox. It's not just anthrax. It could be Mother Nature that throws us the next curve ball. (COCA: 2004.10.15 NPR Science)

また「直球」を表す *fast ball* は一般化され、1) *energy, spirit*, 2) *any fast-moving object or idea (Dickson Baseball dictionary)* を意味し、日本語の一般化されたものとは違った意味になっている。以下に 1) の用例を示す(下線は筆者)。

ABC's Keith Jackson football, the official voice of college football, is still bringing his best fastball. (Baseball Dictionary: 1997.8.22. The Baltimore Sun)

2) の用例は以下のように、アメリカンフットボールのクォーターバックに関して彼の投げるスピードの早いパスについての表現である（下線は筆者）。

With [quarterback] Brett Farve firing fastballs again, Green Bay can't be taken lightly.
(Baseball Dictionary: 2002.1.21 Sports Illustrated)

以上のように、同じ野球用語を語源としていても、言語が違えば、一般化されない場合もあれば、違った意味に一般化されることもある。

3.2 英語表現における野球用語からの意味の一般化

英語でも多くの表現が野球用語に語源を持ち一般化してきた。以下の一般化された表現は日本語にはない英語独自のものである。なぜそのような意味に一般化されたかを見るとともに、その用例を示す。

1) two strikes

野球では、文字通りストライク 2 つの意味であるが、バッターにとっては三振、つまりはアウトになる 3 つ目のストライクまであと一つという追い込まれた状況になることから転じて、*a condition or situation that makes it extremely difficult for someone or something to be successful* (LDOCE), 不利な立場にある (ランダムハウス) といった意味が確認できる。以下の例文では、*two handicaps, two disadvantages* (Baseball dictionary) の意味で用いられている（下線は筆者）。

I always tell him, 'You've already got two strikes against you: you're black, and you're male. The only thing that's going to get you where you want to go in life is an education.'
(1999.10.25. Time 電子版)

2) play hardball

もともとは、大きくて柔らかいボールを使うソフトボールに対し硬球を使う野球を *hardball* と表現したが、「硬い」という意味から転じて *to be very determined to get what you want, especially in business or politics* (LDOCE), 「妥協を許さない強硬な手段に出る」(新英和大辞典) の意味を表す。政治の話では、以下のように記事の見出しにもよく使われる（下線は筆者）。

Obama Plays Hard Ball

His postpartisanship never stood a chance. If there's a second term, the President plans a different game (2012.9.10. Time 電子版)

Time For Hardball?

When Junichiro Koizumi was invited to Camp David one day last June, the Japanese Prime Minister brought along his baseball glove, and the two ball-playing leaders if the world's most powerful economies had a mutually admiring game of catch by the pool. This week, as George W. Bush flies to Tokyo, the first stop in a one-week Asian tour

that includes Beijing and Seoul, he has to be wondering if it's time to play hardball. Koizumi, despite his bold premises of reform when he took office 10 month ago, has accomplished little, Japan's decade-long economies slide is only picking up speed, and Bush Administration officials are concerned that further inaction in Tokyo may trigger an economic crisis with global reverberations. (2002.2.18. Time 電子版)

3) cover/touch all the bases

野球では走者が塁を回る時に確実に各ベースを踏んで (touch) いないといけない、もしくは守備で走者を進塁させないためにベースをカバーしておく (cover) 必要がある。そこから転じて cover/touch all the bases は「万全の準備をする」(ジーニアス)、to make sure you can deal with any situation or problem so that nothing bad happens (LDOCE)、「完璧を期す」(リーダーズ) を表す。以下に用例を示す(下線は筆者)。

The world first fell in love with the mittens, made by the Toronto-based Hudson's Bay Co., during the opening ceremonies, when the Canadians wore them as they circled the track during the parade of nations. With the maple leaf and the five Olympic rings stitched into the gloves, they seemed to cover all the bases – national pride, Olympic fever, the cuteness factor. (2010.2.11. Time 電子版)

4) bottom of the ninth

野球では9回の裏は最後の攻撃を表すことから、bottom of the ninth は last chance to accomplish something (Baseball Dictionary) を表す。以下の記事はその使用例である(下線は筆者)。

All told, upwards of 30% of the Democratic Convention's delegates will be selected in the first three weeks of the process. “The third week of the primaries could be the bottom of the ninth inning,” says the Democrats' past chairman Robert Strauss. (1983.02.28. Time 電子版)

5) get to first base

get to first base は、野球では文字通り一塁へ出塁することであるが、得点を入れるにはまずは一塁に出ないと始まらないことから、「大切な出だしに成功する」(ジーニアス)、to reach the first stage of success in an attempt to achieve something (LDOCE)、という意味に一般化された。以下に用例を示す(下線は筆者)。

Initial beneficiaries of last month's debt announcement are 18 of the so-called heavily indebted poor countries (HIPC) initiative: Benin, Bolivia, Burkina Faso, Ethiopia, Ghana, Guyana, Honduras, Madagascar, Mali, Mauritania, Mozambique, Nicaragua, Niger, Rwanda, Senegal, Tanzania, Uganda, and Zambia. Another nine countries are close to qualification and a further 11 have yet to get to first base on account of concerns over governance, war, instability, or all three. (COCA: 2005.7.7. Christian Science Monitor)

また、恋人との付き合いの第一段階ということから「キスをする」(ジーニアス)、to kiss someone in a sexual way (LDOCE) の意味にも一般化され、以下のように使用例を見ることができる(下線は筆者)。

Fantasy By Benetton: Feuding World Leaders Get to First Base

Hardly a stranger to edgy advertisements, Italian clothing company Benetton continues its penchant for controversy with a new campaign that features images of various political and religious world leaders kissing. (2011.11.7. Time 電子版)

以上一般化された英語野球表現と本来の意味との関連性を見るとともにその用例を見た。

4. 野球表現における同義表現

野球表現には多くのメタファーがあるが、第4章では、野球表現における同義語をいくつか取り上げ、その共通概念を探る。

4.1 「盗塁」の同義語から見る共通概念

「盗塁」という表現において、「盗塁をする者」base stealer、「盗塁という行為」base stealing、「盗塁する」という動詞 steal を、それぞれ *The Dickson Baseball Dictionary* で同義語を探した。図1に示すように、base stealer の同義語としては thief, burglar, robber が確認され、base stealing については larceny, robbery, thievery、steal については embezzle が同義語として扱われている。これらの同意語から「盗塁」に関する表現における共通概念は「盗む」だと見えてくる。

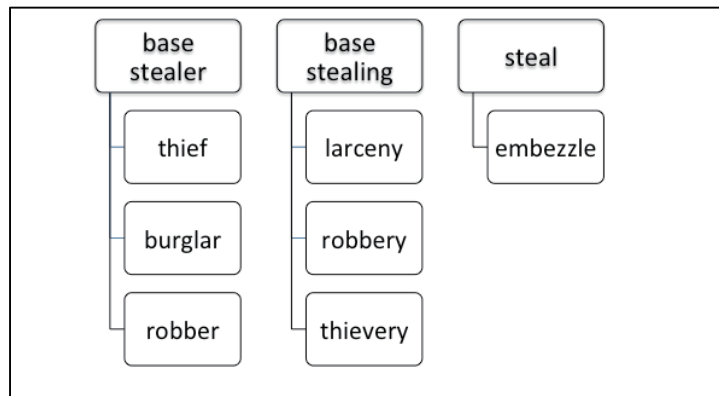


図1. 「盗塁」の共通概念

また以下に thief, robber, larceny, robbery の用例を示す(下線は筆者)。

Scott Podsednik is a thief, stung with the impulse to take off running. (2005.8.15. Sports Illustrated)

Base robber: Andrew McCutchen steals second base while Starlin Castoro misses the tag on Monday. The Cubs defeated the Pirates 3-1. (2013.4.1-3 MLB 電子版 *The Week in Pictures*)

The Yankees needed this spark badly, and larceny was in Jacoby Ellsbury's mind as he retouched third base, keeping his eyes trained upon left-hander Matt Moore while silently calculating the 90 feet separating him from home plate. (2016.4.23. MLB 電子版)

Harry Stovey perpetrated 143 robberies in 1887. (Baseball Dictionary: Earnest J. Lanigan, *The Baseball Cyclopedia*, 1992)

これらの用例は、いずれも非常に足の早い盗塁の得意な選手についてであり、「盗む」という共通概念を持つ言葉で表現されている。

4.2 「フォアボール（四球）」の同義語から見る共通概念

同義語における共通概念は「盗塁」のように一つであるとは限らない。それを「フォアボール」を例に考える。フォアボールは試合記録をとる時などに BB と表記され、これは base on balls から来ている。The Dickson Baseball Dictionary で base on balls を見ると、同義語として多くの表現が確認できる。その表現を共通する概念をもとに図2のように3つのグループに分けることができる。

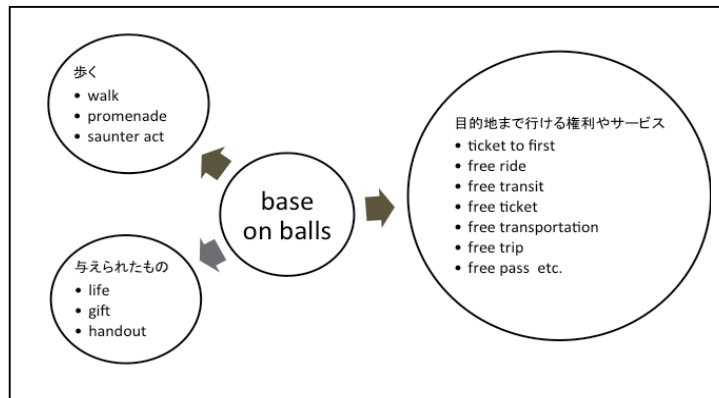


図2. 「フォアボール」の共通概念

<グループ1> 共通概念：目的地まで行ける権利やサービス

該当表現：ticket to first, free ride, free transit, free ticket, free transportation, free trip, free pass etc.

フォアボールになると一塁への出塁が与えられ、ticket や free といった表現が共通して見られることから、共通概念として「目的地まで行ける権利やサービス」が浮かび上がる。

使用例（下線は筆者）：

The Astros took the lead to 2-0 in the second on two singles and two walks, the latter free pass coming by Jordan Schafer with the bases loaded to force in a run. Burns fouled off a couple and then received free transit, to first on a moist ball, which low and to one side of the Mate.' (1917.10.7. New York Times)

<グループ2> 共通概念：歩く

該当表現：walk, promenade, saunter (*Dickson Baseball Dictionary* によると walk 以外は今はほとんど使われていない)

フォアボールになり一塁への出塁が与えられると、ヒットのように走って急いで一塁まで行く必要はなく、「歩いて」行ってもアウトにならないことから、これらの表現は「歩く」という概念を共通して持つと考える。

使用例（下線は筆者）：

Entering after Justin Verlander walked the lead-off batter of the third inning, Bell surrendered a single and a walk before Jordy Mercer rapped a grand slam. (Google news: 2017.3.2. MLive.com)

<グループ3> 共通概念：与えられたもの

フォアボールは打者が自ら打って塁に出る能動的なものではなく、投手が一塁への出塁を献上し、打者にとっては受動的に与えられるという感覚に近いので、「与えられたもの」という3つ目の共通概念が存在すると考える。

該当表現：life, gift, handout

使用例（下線は筆者）

Umpire Brady gave Williamson a life after he had been struck out. (Baseball Dictionary: 1887.8.26. The World)

以上のように、フォアボールの場合は、盗塁のように「盗む」という一つの共通概念からメタファーが多く生まれたのではなく、大きく分けて上記3つの概念から様々なメタファーが生まれ、同義語が増えていったと思われる。

4.3 「満塁」の同義語から見る共通概念

次に「満塁」の同義語から共通概念を探り表現の変化を見る。「満塁」の同義表現は、上記「盗塁」、「フォアボール」のいずれともとも違った派生をしている。「満塁」には以下の用例のように様々な表現が使われる（下線は筆者）。

Kiermaier then stepped to the plate in the second with the bases loaded. With an 0-for-20 staring him in the face, Kiermaier came through, lining a single to center to score two and put the Rays up, 3-0. “I was happy to come up in a bases-loaded situation and get a big knock right there,” Kiermaier said. (2017.5.3. MLB 電子版)

Except the shortstop took a stroll on a checked-swing ball four, putting Toronto ahead 2-1 as Donaldson trotted home and all the bags were still tenanted by Jays. (Google news: 2016.7.30. The Star.com)

Mountaineers leave bases jammed in 9th at Clemson (Google news: 2015.2.14. West Virginia Metro News)

The bases were crammed for Ramírez, again. (2007.10.14 New York Times 電子版)

The Dickson Baseball Dictionary で「満塁」の類義表現を bases --- や bases are/were --- のフレーズで見ると、--- の部分には、full, loaded, tenanted, waterlogged, crowded, jammed, bulging, choked, crammed, drunk, juiced といった単語が確認できる。満塁という意味での使用を古い順に並べると、full (1871), loaded (1880), tenanted (1908), waterlogged (1910), crowded (1912), jammed (1913), drunk (1946), juiced (1999) となる (bulging, choked, crammed に関しては初出の時期は不明)。drunk と juiced を除いた上記表現について辞書の意味を見ていくと以下ようになり、「一杯になる、一杯にする」という full や fill が共通概念として見えてくる。

loaded : full and heavy (OALD)

waterlogged : full of water (OALD)

crowded : full of something (OALD)

jammed : very full (OALD)

bulging : completely full (OALD)

choked (choke): fill a place so that thing cannot move through it (LDOCE)

crammed : full of things or people (OALD)

tenanted に関しても、動詞としての tenant には occupy (property) as a tenant の意味があり (COD)、occupy に fill or uses a space, an area or an amount of time (OALD) の意味があることから fill が確認できる。

full や fill の意味が辞書では確認できない drunk や juiced も以下の用例のように「満塁」表現として使われている (下線は筆者)。

It's anticlimactic when you throw a 3-2 pitch with the bases drunk and the guy fouls it back, and you're like, 'Oh god. Here we go again.' (2009.10.22. MLB 電子版)

The Red Sox had the bases juiced with two outs when Pedroia came up to bat in the seventh inning against the Tampa Bay Rays. (2016.9.24. NESN 電子版)

bases drunk や bases juiced に関しては、drunk と juiced に共通する「酔った」という意味は「満塁」の概念としては適切な関係性を見つけないことができる。これらは、前節で見た「フォアボール」の派生のように、異なる別の概念からメタファーとして派生したのではなく、満塁表現としてよく使われる bases loaded から派生したのではないかと考える。loaded には、very drunk の意味があり (OALD, LDOCE, ジーニアス等)、その点で drunk, juiced は loaded と同義語になることから、bases drunk, bases juiced も bases loaded と同じく「満塁」を表す同義語になったと考える。OED によると loaded が drunk の意味で使われ始めたのが 1890 年、juiced に drunk の意味が出だしたのは 1946 年とあり、bases drunk, bases juiced が「満塁」の意味で使われ始めた時期よりも早く、時系列的にも矛盾はない。

以上のように、「満塁」表現の同義語には、「一杯になる、一杯にする」という一つの共通概念から派生した表現 (bases full, loaded, tenanted, waterlogged, crowded, jammed, bulging,

choked, crammed) と、その中の一つの表現である loaded の「酔った」という意味の同義語から派生した表現 (bases drunk, juiced) とがあることが分かる。

4.4 音の類似性からの派生を含んだ同義表現

音の類似性から生まれた表現として、サッカーで使われる nutmeg という言葉がある。ジーニアスには「(サッカー) で相手の足の間にボールを通す、または通すこと」とあり、いわゆる「股抜きパスやシュート」のことで動詞と名詞の意味がある。この場合はナツメグというスパイスとサッカーとの間に関連性があるのではない。ディフェンダーにとって股抜きシュートを決められるのは屈辱的なことで、「語源としては英国の“コクニー・ライミング・スラング(ロンドンの下町で生まれた韻を踏んだスラング)” からきた言葉で、股抜きされたディフェンダーが Not my leg! と叫ぶ様子を表している」(ヒギンス, 2002)。Not my leg と nutmeg の音の類似性から派生した意味である。同じような派生が野球表現でもあるが、音の類似性からの派生に加え、意味の類似性からも派生し同義語となったものがあり、その例を以下に取り上げ変化の過程を見る。

まず、「強襲のあたり」を表す表現について取り上げる。図3が示すように、「強襲のあたり」を表す at'em ball は音の類似性から atom ball へ派生し、その後意味の類似性から nuclear fission ball へと派生した。

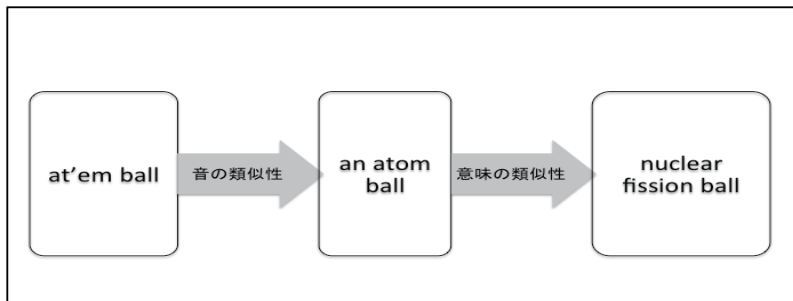


図3. 「強襲のあたり」表現の変化

at'em ball とは、打者が強く打つ球、ピッチャーや守備人への強襲性のあたりを指し、*The Dickson Baseball Dictionary* では、a hard-hit ball directed at a defensive player (“at him”) とある。atom ball は上記の nutmeg の例と同じように at'em ball の音の類似性から派生し同義語となった。その後、atom ball の意味の類似性から nuclear fission ball という同義語が生まれた。以下に atom ball の用例を示す。強打者の Bobby J. Jones がいいあたりをしていたように、攻撃陣は強襲性のあたりを飛ばしていたがどれも守備の正面へ行ってしまうヒットにならなかったという内容の中で使われている(下線は筆者)。

“[Bobby J. Jones] had the atom ball working pretty good. We hit some balls extremely hard...but we just couldn't find any holes.” (Baseball Dictionary: 2000.10.9. Dusty Baker quoted in The Baltimore Sun)

同じように、音の類似性からの派生に加えて、意味の類似性からの派生し同義語が増えた表現として、「打点」を表す RBI の例を見る。図4が示すように RBI は最終的に steak へと派生

する過程で、音の類似性からの派生と、意味の類似性からの派生がある。

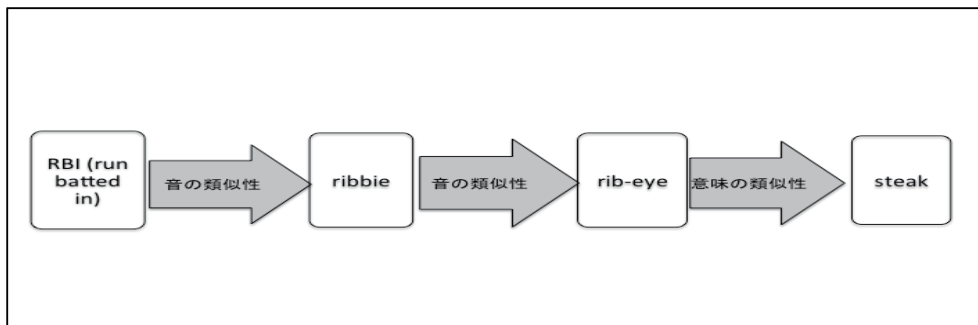


図4.「打点」表現の変化

「打点」を表す表現は run batted in が用いられるが、記録などに使われる略記号 (abbreviation) RBI もよく使われる。以下に用例を示す(下線は筆者)

Javier Baez came within a double of the cycle with four hits and three RBIs, Kyle Schwarber broke out of a slump with a three-run homer and the Chicago Cubs defeated the Philadelphia Phillies 8-3 on Tuesday night. (2017.5.2 New York Times 電子版)

RBI は abbreviation だけでなく、頭字語 (acronym) で一つの単語として発音され、そこから ribbie, ribby, ribbee も「打点」を意味するようになった。以下に用例を示す(下線は筆者)。

“Early in the game, we’re going to recognize him, have him step out to the balcony area in the suite, show him on the scoreboard, talk about his Game 6 heroics, getting two hits and a big ribbie,” DiBiaso said. “He got the fourth RBI of that game, and we ended up winning 4-3, so it was a very important RBI. (2016.11.1. MLB 電子版)

その後 ribbie の音の類似性から、rib-eye という表現に派生したと考えられる。「打点」の意味での rib-eye の用例を以下に示す(下線は筆者)。

V-Mart’s ribeye fasting ends: Victor Martinez entered Tuesday with no RBIs since Aug. 20, mired in an 0-for-21 slump with runners in scoring position. He ended the drought with two clutch singles Tuesday. (2015.9.16. MLB 電子版)

そして、「rib-eye = ステーキ」という意味の類似性から、steak も「打点」の同義語となったと思われる。以下がその用例である(下線は筆者)。

“It’s a new experience in the game of baseball, going this long in baseball without getting a steak,” Morgan said, using baseball parlance for an RBI. (2012.6.2. MLB 電子版)

本節では、野球表現の中には音の類似性からの派生に加え、意味の類似性からも派生し同義語となるケースがあることを「強襲性のあたり」と「打点」の表現から見た。しかし「打点」に関しては、いずれの用例も文中にはパラフレーズで RBI という表現が入っていることから、派生した言葉を単独で使うには、まだ認知度が低い可能性があることは否めない。

5. まとめ

本稿において英語野球表現における意味変化を一般化と同義表現の観点から見てきた。野球はアメリカ4大スポーツの一つであり人気も高く、また歴史も長いことから、多くの野球英語表現が一般化されてきた。本稿では、一般化される前と後の意味を辞書の説明と実際の用例をもとに確認するとともに、それがなぜ一般化した意味へ転じたかを見た。その中で、同じ表現が必ずしも日本語・英語の両方で一般化されるとは限らないこと、また同じ野球用語であっても日本語と英語では違う意味に一般化されることがあることを明らかにした。また、同義表現においては、「盗塁」、「フォアボール」、「満塁」に関して、その同義表現の共通概念を見ることで、同義表現への派生の過程は3つとも異なる過程を経ていることが分かった。「強襲性のあたり」と「打点」の同義表現では、音声の類似性に加え意味の類似性から派生していく過程も確認できた。

今後の課題としては、野球用語から一般化した表現に関しては、本稿で見たような新聞や雑誌における用例だけでなく、日常会話でどのように使われているのかを見ていくことも必要だと考える。また同義表現に関しては、今回とりあげた表現以外のものから、さらなる派生の過程を調査したい。今後も野球は多くの英語表現に影響を与えていくと思われ、新しい意味の一般化や同義表現への派生など引き続き注目していきたい。また、アメリカンフットボールやバスケットボールなど他の4大スポーツの用語が英語表現に与える影響も今後研究していきたい。

参考文献

- Dickson, P. (2009). *The Dickson Baseball Dictionary Third Edition*. New York: W. W. Norton & Company, Inc.,
- Dickson, P. (2015) *How Baseball Has Changed the English Language* retrieved February 20, 2017 from <https://www.thenationalpastimemuseum.com/article/how-baseball-has-changed-english-language>
- 池上嘉彦 他. (1996).『テイクオフ英語学シリーズ3 英語の意味』東京：大修館書店
- ヒギンス, シャノン (2002).『シャノン・ヒギンズの野球英語で直球勝負』東京：マクミラン ランゲージハウス
- Lakoff, G. & Johnson (1986) *Metaphors We Live By*. [渡部昇一・楠瀬淳三・下谷和幸(共訳)]. (1986).『レトリックと人生』東京：大修館書店]
- 水庭進. (1988).『野球の英語活用辞典』東京：南雲堂
- 靱山洋介. (2002).『シリーズ・日本語の仕組みをさぐる⑤ 認知意味論のしくみ』東京：研究社
- 瀬戸賢一. (1995).『メタファー思考』東京：講談社
- 谷口一美. (2003).『認知意味論の新展開』東京：研究社
- 烏賀陽正弘. (2015).『超入門 メジャーリーグの英語』電子書籍版 東京：PHP 研究所
- 寺澤盾. (2016).『英単語の世界』東京：中央公論社

電子媒体

ESPN 電子版 www.espn.com

Google news <https://news.google.co.jp>

MLB 電子版 <https://www.mlb.com>

NESN 電子版 nesn.com

New York Times 電子版 <https://www.nytimes.com>

TIME 電子版 time.com

Sand Apps Inc. (2016). *1,250 Football Terms & Plays with a Glossary and Play Dictionary*

辞書 (略号)

COD: *The Concise Oxford English Dictionary* (11th ed.) 2004. Oxford: Oxford University Press.

LDOCE: *Longman Dictionary of Contemporary English* (5th ed.) 2008. Harlow: Longman.

OALD: *Oxford Advanced Learner's Dictionary* (8th ed.). 2010. Oxford: Oxford University Press.

OED: *Oxford English Dictionary* 1928. Oxford: Oxford University Press.

Weblio: Weblio 辞書 available at <http://www.weblio.jp>

ジーニアス : ジーニアス英和大辞典 用例プラス . 2001 東京 : 大修館書店

大辞泉 : 大辞泉 第2版 . 2012. 東京 : 小学館

リーダーズ : リーダーズ英和辞典 第2版 . 1999. 東京 : 研究社

ランダムハウス : ランダムハウス英和大辞典 1993. 第2版 . 東京 : 小学館

コーパス

COCA: The Corpus of Contemporary American English